

1. 応募団体名	唐津市、担当：中江 勉、TEL:0955-72-9135
2. 調査名	唐津・海遊浪漫都市構想調査
3. 推薦団体名	
4. 調査の対象地域	
(1) 対象となる行政区域名、地区名等	<ul style="list-style-type: none"> ・行政区域：唐津市 ・地区名：東唐津地区、城内地区、西ノ浜地区、ニタ子地区、西唐津地区、大島地区、妙見地区、佐志地区
(2) 対象となる行政区域及び地区の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・行政人口：13万1千人（平成17年1月1日市町村合併） ・地区の特徴：唐津の海辺（虹の松原～佐志地区）とその背後に連なる市街地及び松浦川河口部
5. 提案した活動の内容	
(1) テーマ、課題	<p>古より海から大いなる恩恵を受けてきた「海の街・唐津」は、目指す都市像の一つとして「自然と歴史と文化が織りなす『海遊浪漫都市』」を掲げ、生き生きとした地域づくりを促進し、自らの地域に誇りと愛着が持て、訪れる人に温かさあふれる都市づくりを進めている。</p> <p>また、平成17年1月1日には周辺7町村と合併したことから、旧唐津市域がその中心となって地域の活性化を図る必要があるとともに、福岡大都市圏から1時間圏域にある立地性を活かし、地方都市発展のモデルを創出することは極めて有意義であると考えられる。</p> <p>以上のような背景のもと、本調査では、市民・事業者・自治体の協働により、本市の広域的な位置付けや海際の現況と課題を整理するとともに、海際にある多くの利活用候補地や事業展開の有機的な連携を踏まえつつ、「海際のまちづくり」のあり方や全体像などの基本的な方針や実現に向けた基本的な戦略などを検討し、取りまとめるものとする。</p>

(2) 本調査費による
活動内容の概要

【構想づくりワーキング会議】

○設置目的

「海際のまちづくり」について幅広い意見交換を行い、官民協働による構想づくりを進めることを目的に設置

○開催回数

4回開催（H16年12月～H17年3月）

○委員構成

唐津元気再生委員会、民間のゲストメンバー、行政機関（国、市職員）など26人参加

○委員の特徴

・唐津元気再生委員会

元気あふれるまちづくりを目指し、本調査前から同テーマに取り組んでいた委員会メンバー

・民間のゲストメンバー

唐津の海と海洋スポーツを考える会、建築家、教師

・行政機関

唐津港湾事務所、武雄河川事務所、同松浦川出張所、唐津市

○解決できた課題

●海際のまちづくりのあり方や全体像の基本的方針の具体化

- ・本市の広域的位置付け
- ・海際の現況と課題の整理
- ・基本理念及び基本方針
- ・土地利用の方向性
- ・基本戦略とイメージの構築
- ・実現に向けた取組み（ハード、ソフト）
- ・利活用候補地の利活用の方向性

6. 本調査と関連する活動実績

【唐津みなとまちづくり懇話会】

○設立目的

・唐津港の港湾計画の改訂時期にあることを契機として、みなとまちづくりのあり方や唐津港の将来像について、地元地域が主体となって議論し、地域が望む唐津港や唐津みなとまちの将来像を描くとともに、新たな港湾計画への反映を視野に素案づくりを進めることを目的に設立。

○開催回数

・全体会5回、ゾーン部会6回開催（H17.3.4現在）
（H16年6月1日設立、第1回全体会開催）

○コア委員構成

・唐津港湾事務所、県港湾課、唐津土木事務所、学識経験者、唐津商工会議所、唐津港振興会、唐津港利用促進協議会（九州電力）、NPO法人九州キラキラみなとネットワーク、佐賀県ヨットハーバー指導員（オリンピックメダリスト）など16名

○部会委員構成

・唐津青年会議所、唐津元気再生委員会、地元駐在員、唐津小型船安全協会、西ノ浜を綺麗にしゅう会など23名

○本調査のテーマや課題の解決に資する活動

- ・連携、情報の共有化による幅広い意見の集約
- ・海上（船上）及び陸上からの現地視察
⇒（海際の現状と課題の確認）
- ・市民アンケート結果の確認
⇒（課題とニーズの把握）
- ・海辺のゾーニングと利活用の方向性の整理
⇒（土地利用の方針）
- ・動線づくりの基本的な考え方の整理
⇒（土地利用及びイメージの構築）
- ・仮設展望台の設置による眺望の確認
⇒（利活用候補地の活用方針）

7. 本調査の成果等、本調査の実施過程で顕在化した課題など

○本調査の成果

①本調査により、テーマや課題の解決の糸口を見つけたことができた。

その理由は、相互にエリアが重なる「唐津・海遊浪漫都市構想づくりワーキング会議」と「唐津みなとまちづくり懇話会」との連携及び情報の共有化により、違った角度から多くの委員の方々の意見や提言、専門的なアドバイス並びに情報提供などを得ることができたことにより、ポイントを確認しながら課題の整理と目指すべき方向性が見出せたと考えている。

②まちづくりは市民が主役である。本調査を進める中で、市民意識の広がりにより市民が主体となった先導的取組みが次々と誕生したことは、まちづくりに一番必要な“人づくり”という観点からも本構想づくりとその実現に向けた大きな成果と考えている。

(唐津里浜づくり推進協議会、海遊キッズクラブ、NPO法人唐津海遊浪漫北京チャレンジ・サポーターズ2008人委員会等の設立と活動、新年の汽笛一斉吹鳴の実施など)

○新たな課題

本構想の実現に向け、構想の更なる具体化、活動の継続性、人材育成、法的規制、利害調整、財源確保、関係機関との調整、官民の連携、構想に対する認識の共有化など新たな課題があることが分かった。